

# チェルノブイリ通信

<https://www.cher9.org/>

NPO法人  
チェルノブイリ医療支援ネットワーク  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-11-5F  
TEL/FAX: 092-260-3989  
E-mail: jimmu@cher9.org



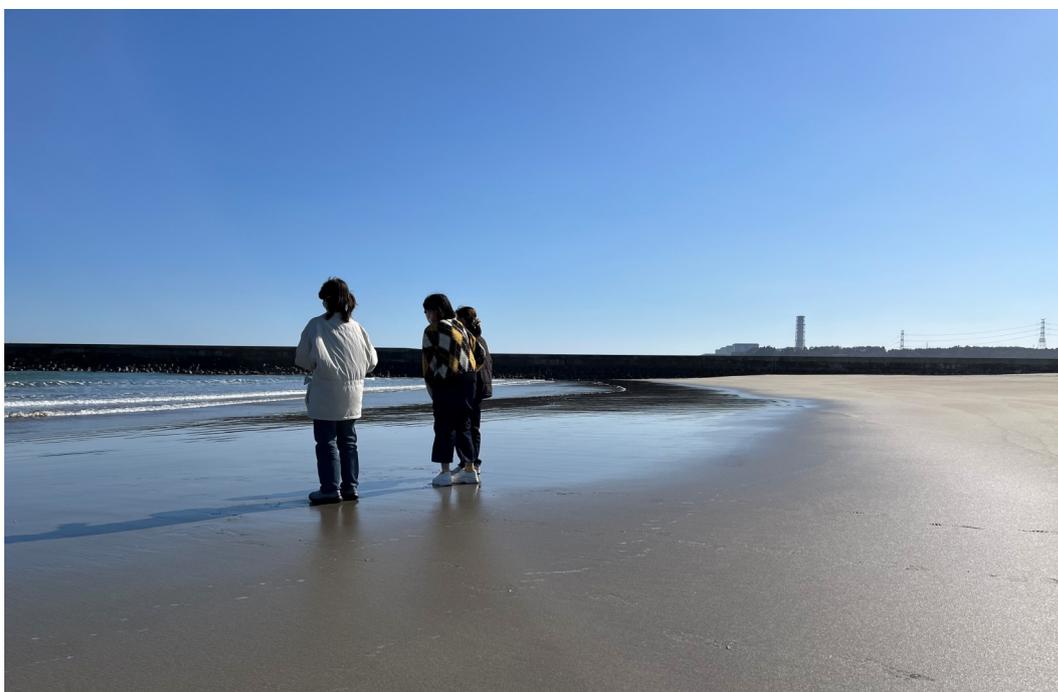
チェルノブイリ医療支援ネットワーク (CMN) は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.

131

## 特集 福島訪問レポート

CONTENTS 大学生による福島訪問レポート / リサイクル募金きしゃぼんのご紹介とお礼 / シンカブルのご紹介 / 写真から福島の今を知る (2) / コラム ミンスクの1日 / 支援者のお名前とメッセージ



富岡漁港 (福島県双葉郡富岡町) を訪れた大学生  
右奥には福島第二原子力発電所が見えています

ホームページではカラー版を公開中  
↓アクセスはこちらから



本紙はチェルノブイリ医療支援ネットワークの活動を  
支援して下さっている皆さまへお届けしています。  
送付がご不要な場合は事務局までご連絡ください。

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか?  
ご寄付を受け付けています。

ゆうちょ銀行	記号 17460 番号 52319621
	他の金融機関からは 七四八支店 (普) 5231962
楽天銀行	ジャズ支店 (支店番号201) (普) 7017104
住信SBIネット銀行	法人第一支店 (支店番号106) (普) 1030416
※口座名はいずれも「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」	

# ● 特集 ● 大学生による福島訪問レポート

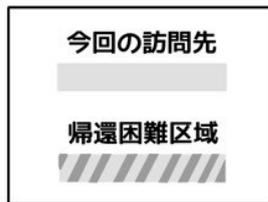
2023年2月28日～3月5日の福島訪問に参加した2名の大学生のレポートです。

今回は帰還困難区域周辺の地域を訪問し、中間貯蔵施設の見学にも参加しました。また、福島県で生まれ育った大学生との交流会もおこない、震災前後の様子についてお話をうかがうことができました。訪問を通して知ったことや考えたことについて報告していただきました。

## 山津見神社



山の神を祀る神社。  
世にも珍しい狼信仰で、狛犬でなく狼がいます！  
2013年の火災で拝殿が消失したため  
2015年に再建されました。  
東京芸術大学の学生によって復元された  
狼の天井絵が見どころです。



## 道の駅なみえ



2021年にできた新しい道の駅です。  
フードコートでは海鮮丼や浪江名物・  
なみえ焼きそばを食べられます。  
焼きそばパンや升に入った  
甘酒のソフトクリームも販売しています。  
お土産がいっぱい買えます！



## JR 双葉駅



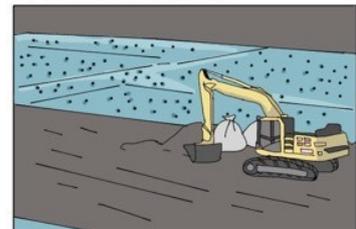
2020年に新設された駅。  
電車は1時間に一本が目安です。  
近くには町役場があり、周辺には  
新しく公営集合住宅が建設され、  
役場員の方を中心に、県外に避難  
していた方も生活しています。

## 富岡アーカイブミュージアム



富岡町の歴史についての情報を中心に  
取り扱うミュージアムです。  
震災に関する情報も、  
沢山展示されています。  
震災で津波が押し寄せる中避難を  
呼びかけ、走り続けたパトカーを  
当時のまま保存しています。

## 中間貯蔵施設



除染の際に出た廃棄物や  
土を貯蔵しています。  
面積は渋谷区とほぼ同じです。  
2045年までに福島県外での  
最終処分を行います。



★ 今回の訪問メンバー！ ★

□飯館村(大島 妃南子 大学二年)

【渡邊とみ子さん】

福島訪問の初日は、飯館村で「いいたて雪っ娘」というカボチャの生産から加工、販売、普及活動をされている渡邊とみ子さんにお会いし、一泊させていただきました。夕飯には「いいたて雪っ娘」をふんだんに使った郷土料理をいただきました。その際、震災当時から今に至るまでのお話も伺うことができました。私は、初めての東北の地で聞きなれない方言にほっこりしつつも、慣れない環境と震災当時の複雑な状況のお話に少し戸惑う場面もありました。

飯館村は、原発事故による放射能汚染の影響を大きく受けた村です。そんな中、とみさんは震災当時、自身も避難生活を送りながら、いいたての特産品の種を絶やすわけにはいかないと雪っ娘カボチャの種まきをしたそうです。今でも、食品中の放射性物質を計るには、その食品が1kg必要であることから、特に製菓類では製造したほとんどが検査のために使用されることがあるとも聞きました。あふれんばかり



りの笑顔でお話してくださいましたとみさんからは、飯館村の特産品を何とかして広めたい、分かってもらいたいという飯館村に対するとみさんの愛情、家族への感謝の気持ちが伝わってきました。その背景には私たちに

は計り知れないほどの苦難や努力があったのだと思います。こうして震災を経験された方とお会いし、お話を聞く機会は初めてのことで、すべてを理解するのは難しかったです。貴重な経験となりました。私がこうしてとみさんとの出会い、お話しできたことに感謝したいです。

【伊藤延由さん】

訪問二日目は飯館村で放射線濃度や原発関連の取り組みをされている伊藤さんにお会いし、飯館村をまわりながら伊藤さんのご自宅に訪問して、飯館村の現状と原発についてのお話を伺いました。私自身福島訪問は今回が初めてでしたが、伊藤さんのお話は特に印象深かったです。



す。訪問期間中は、何度もモニタリングポストを目にし、初日はその光景に違和感を覚え、その恐れろしさを知ることができません。しかし、短期間の滞在でも、目を重ねるにつれ、その光景に慣れている自分がいました。線量計さえ日常の一部になってしまえば、驚きや怖さは薄れていくのだと実感しました。

長泥地区の帰還困難区域の通行止め地点では、行き交う車も少なく、バリケードのされた地区を前に、どこか現実とは思えない異様な雰囲気でした。私たちが訪問した後の4月25日には、5月1日午前10時より飯館村の特定復興再生拠点区域と同区域外の一部の公園用地の避難指示解除が決定されました。そもそも、帰還困難区域とは、東日本大震災による福島第一原子力発電所事故に伴い、国が発出した避難指示に由来します。年間の被ばく線量の合計の目安をもとに、はじめは、警戒区域、計画的避難区域、緊急時避難準備区域の3つに指定されました。その後、段階を踏んで帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域に見直されました。特定復興再生拠点区域とは、居住することを制限されてきた帰還困難区域のこと



中間貯蔵施設（古賀 伊織 大学3年）

私は今回が初めての福島でした。福島県で今何が起きているかはYouTubeやネット記事でふと気になって何度か調べたことはありましたが、今回の訪問で私は福島県の今を全く知らなかったんだな、と実感しました。特に、中間貯蔵施設については名前すら聞いたことが無く、除染作業についても知りませんでした。

私は、中間貯蔵施設の見学にあたって初めて帰還困難区域に入りました。そこで衝撃だったことが、今でも震災当時のままのお店や家がたくさん残っていることです。まるでここだけ時間の流れが止まっているようでした。震災前は、今はヒビが入って草が生い茂るあの家にも生活している人がいて、人の気配がしないあのお寿司屋さんも家族連れで賑わっていたのかと思うとどこかやるせない気持ちになりました。



↑バリケード  
厳重に警備されています。

#### 〈中間貯蔵施設〉

中間貯蔵施設は仮置き場にあるフレコンバックを輸送して、廃棄物と除染土を分けて貯蔵している施設です。これまでに福島県内の輸送対象市町村52市町村のうち、46市町村からの輸送は完了しています。ここに来るまでに輸送用のトラックを何度も見かけました。今は3〜4台続けて走っていますが、輸送が開始された頃はひっきりなしにトラックが何台も続いて走っていたそうです。

施設内はバスに乗って見学しました。車窓からは、震災当時のままの老人ホームサンライトおおくまが見えました。原発事故圏内であるこの施設には震災当時90人の入所者がいました。施設の外には職員の車などが12年前のまま駐まっています。この施設は震災遺構として保存されています。

途中、バスを降りて見学する場所では、除染土を埋め立てしている土壌貯蔵施設の様子を見ることができました。施設は想像よりも倍広く感じました。海沿いの施設の奥には事故が起きた第一原子力発電所が見えます。ここで貯蔵された除染土は2045年までに福島県外で最終



↑土壌貯蔵施設  
奥に第一原子力発電所が見えます。

処分することが決まっています。しかし、最終処分場所は決まっていません。政府は最終処分に向けて、除染土を汚染されていない土やコンクリートで遮蔽し、その上に道路を作ったり、農作物を育てる「再生利用」を行うことで、東京ドーム11杯分という莫大な最終処分量を減少させて、処分の負担を減らす取り組みを始めました。実際に花や野菜の栽培を試験的に行った結果、収穫した農作物からのセシウム量は一般食品における基準値を大きく下回る結果となりました。しかし、その安全性を主張しても再生利用への不安の声は絶えません。

不安の声の多くが「危険だ」「汚染拡大に繋がる」といったものです。実際に県外で計画されていた再生利用の実証計画は反対意見によって白紙となりました。最終処分地が決まっていないのも、同じような意見があるからだと個人的には思います。このままでは最終処分地の場所の決定はおろか、再生利用事業も進まない可能性があります。今回の訪問で除染土が埋め立てられている様子を見学しましたが、想像よりも遥かに大きい土地に埋め立てられており、本当にこの量の土砂を県外に持っていくのか、果たしてそれは20年程で可能なことなのか、とても疑問に思いました。



除染土の埋め立ての様子。

県外での最終処分に関する認知度は福島県外では2割、県内でも5割程度とかなり低いです。実際に私も以前までは全く知りませんでした。そんな状況で再生利用事業を進めることは果たして可能なのでしょうか。この問題は福島県だけの問題ではありません。私は、まずは最終処分についての認知度を上げることが重要なのではないかと思います。

東日本大震災から12年が経ち、震災を経験していない世代も小学校を卒業する年になりました。ニュースで取り上げられることも少なくなった今、まだ復興は終わっていないことを誰もが知る必要があります。知るためには自分から学ぶことが大切ですが、学ぶきっかけがないことが現状です。そこで、私たちにできることとして、そのきっかけを与えるために、この記事のように福島の今をこうして情報発信していくことが大切だと私は考えます。

中間貯蔵施設には帰還困難区域である大熊町や双葉町の震災前の姿が写真や動画で紹介されています。ここで紹介されている美しい自然や伝統行事、当たり前の生活が震災で失われてしまったことは改めて悲しく思いました。一部の地域では新しく公共施設や観光施設が建てられていますが、震災前に

比べると人の数も少なく、新しい建物の周りには更地が広がっていたりと寂しく感じました。震災前と同じような姿に戻ることは不可能かもしれない。それでも1日も早く被災地が震災前の賑わいある姿に戻ることを願っています。



道の駅なみえ

2021年にできた新しい道の駅。農産物やお土産、名物料理などが食べられる。

平日に訪問したが、人が多く感じた。

## 福島大学の大学生との交流会

今回の福島訪問では初の試みとして、福岡の大学生と福島の大学生の交流会をおこないました。参加した大学生（福岡出身）の感想をご紹介します。

\*紙面の都合上一部抜粋してご紹介しております。全文は団体ウェブサイトに掲載しています。

アクセスはこちら



交流会の様子

最初はぎこちなかったですが、  
最後は打ち解けることができました。

### ◇大学生3年 赤岩

お話を聞きまして、このような出来事は日本

全国どこで誰もが経験する可能性があると思いました。自分に置き換えて考えてみてください。生活を送っている見慣れた町で、誰もが予期しなかったもの、むしろ地域を活性化させてきたものから日常を、友達を、地元を奪われる怖さを。九州にも玄海原発があり、他人事ではないと再認識しました。しかし、同級生の中には、福島の原発事故を知らない人はいないものは、玄海原発があることすら認識していない人は少なくありません。福島の原発事故をどこか遠い場所での出来事だと思っているからです。これらを踏まえて、福島の復興は福島だけのものではないのではないかと考えました。

福島で起こった原発事故について勉強し、一人でも多くの人に原発についての意見を持ってもらうことが重要であると考えました。今回の交流を通して、事実を、当事者の思いを、「知る」「学ぶ」ということは大きな一歩であると感じました。遠くで起こった出来事を自分ごとと捉えることは簡単なようで難しいです。まずは、私自身が福岡の一大学生として原発について学び考えを深めていきたいです。

### ◇大学3年生 古賀 伊織

震災に関するイベントはあまり無いとのこと

で、特に原発については学んだり話し合う機会は少ないため原発そのものへの知識もあまり無いそうです。被災地である福島で震災について知る、考える機会が少ないのはとても驚きました。しかし、その一方でニュース、講演会を通して被災について学ぶ人も多く、また、福島の大学に東京や沖縄など県外から被災地の今を学びに来る学生は多いそうです。

震災直後に生まれた子どもも12歳を迎え、全国的に、福島県でさえも震災のことを学ぶ機会が減り、被災地の今について知る人が減っていく一方で、学ぶ人も増えていきます。復興のためには、ただ新しい建物や高額な公共施設を建てるばかりではなく、やはり福島の今を1人でも多くの人に知ってもらうことが大切です。福島の大学生は、「被災地の現状、住民の思いなどを直接見たり感じたりしてほしい。まだ復興は終わっていないことを知ってほしい。」と語られました。そのためにもまずは学ぶきっかけとして、情報発信や復興に向けてのボランティア活動を行うなど、私にも、私達にも被災地の復興のためにできることをしていきたいです。

◇大学2年生 大島 妃南子

原発の再稼働について尋ねたところ、安全面や対策の面では、ほとんどの方が反対意見を示していました。しかし、現実をみると、賛成せざるをえないといった考えが目立ったように感じました。

私自身は、原発の再稼働には反対です。なぜなら、対策をしたとしても事故が起こる可能性はゼロではなく、もし事故は起きた場合には、何世代と超えてその影響を受けることになるからです。現実問題難しいのはそうですが、反対意見を挙げるこの意味は、こうした部分にあるのだと思います。難しいからこそ考えるべきであり、そこに妥協は必要ないのではないのでしょうか。

今回こうして福島大学の大学生の方々と交流でき、自分自身はどうなのかと考える機会となりました。原発問題は今後の私たち世代、その次の世代と考えていかなければならない課題であると同時に、こうして同世代間で意見を共有できたのはその小さな一歩だったのではと思います。普段からもっと固い場ではなくこうした内容を話せる場ができればと思いました。

ご支援・ご協力をありがとうございます！



古本募金  
きしゃぽん

読み終えた本やCDなどで募金ができる「古本募金きしゃぽん」を通じて、たくさんのご寄付をお寄せいただいております。

誠にありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします！

◀ これまでにお寄せいただいた寄付額 ▶

◆◆1,252,661円(430名)◆◆

- ◆2017年～2020年 810,147円 (290名)
- ◆2021年 292,268円 (80名)
- ◆2022年 135,740円 (44名)
- ◆2023年1月～4月 14,206円 (16名)

あなたのご自宅や職場に眠るお宝が

チェルノブイリ支援につながります



その他、懐かしのおもちゃ、ブリキ玩具(昭和40年代以前のもの)、フィギュア、プラモデル、鉄道模型、洋酒、テレホンカード、商品券、切手、ハガキ、年賀状、カメラレンズ、模型、絵画、万年筆など…

クレジットカード決済・シンカブルのご案内

クレジットカードで寄付ができる“Syncable(シンカブル)”を導入しています。

チェルノブイリ医療支援ネットワークのホームページや右のQRコードから

アクセスが可能です。



## 目録 除去土壌とは

福島原発事故における除去土壌とは、放射性物質が土壌中に蓄積されることで、土壌が汚染されることです。

具体的には事故で放出された放射性物質であるセシウムやヨウ素が、土壌中の粘土や有機物と結合し、土壌中に長期間残留することで、除去土壌が発生しました。



# 写真から福島 の今を知る(2) 除去土壌は、 再利用

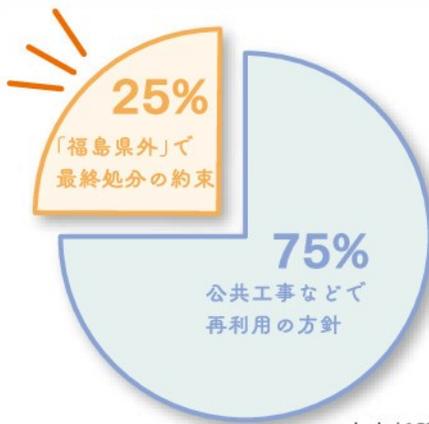
# されるのだ!

2023年春



「除去土壌」は除染後、10m地下に貯蔵される。

## 除去土壌の経路（福島県内）



東京新聞(2023年3月5日朝刊)より

### ▲除去土壌の行方

国は2045年までに県外で全て最終処分すると約束しているが、発生量の4分の3は放射能濃度は一定以下で、公共工事などで再利用可能だとしている。福島県内各地からの汚染土壌の搬入はほぼ終了し、中間貯蔵施設での作業も終盤だという。中間貯蔵事業の規模は1兆6,000億円。

2023年春の訪問で注目したのは、「除去土壌」です。「除去土壌」は、放射性物質の濃度が高い土壌のことです。福島県内の「除去土壌」は、現在双葉郡大熊町と双葉町にある2つの中間貯蔵施設に集約されて、処理作業が進んでいるといえます。今回は「除去土壌」の現状と課題についてレポートします。

## 📷 除去土壌の現状と課題



### ▲汚染物質の除去

除去土壌から放射性物質を除去することは非常に困難だという。除去したとしても残留物質が残る可能性もある。再利用に際しては、安全基準に合致するまで汚染物質を除去し続ける必要がある。また、かかる費用も膨大だ。



### ▲保管場所の確保

除去土壌を貯蔵する中間貯蔵施設は、長期で安全な保管が必要です。全体の面積は1,600haにわたり、その8割が福島第一原発周辺の民有地です。地元の地権者は2,000人以上。多くの被災者の皆さんの協力のもとで、中間貯蔵事業は実施されている。



### ▲東京新聞の特集記事

東京新聞では、3.11前の3月5日朝刊で事故後12年を迎えた福島第一原発の現在を伝える特集記事が、見開きで掲載された。

また動画(上記のQRコード参照)では、中間貯蔵施設の上空からの映像も交えて伝えている。



### ▲再利用の安全性の確保

福島県外最終処分に向け、コストを削減するためにも除去する土壌の量を減らす必要があるという。

そのため、除去土壌等の減量や再利用が進められている。(写真は、中間貯蔵施設に掲示中の飯舘村長泥地区における再生利用実証事業の見学会ポスター)

## 📷 汚染土壌の今後

### 議論 < 経済性

#### ▲そもそも再利用はなぜ必要なのか

「全ての量を最終処分するための処分場の確保は難しい」(国)という。

一方で除去土壌の総量75%が再利用で、福島県外での利用も検討されているというが、「拡散」には繋がらないのだろうか。一番危険なのは、再利用ありきで拙速に進めていくことではないか。



#### ▲福島県外での再利用実証試験

福島県外再利用の第一歩として令和4年12月16日に埼玉県所沢市で、21日には東京都新宿区で実証事業に関する住民説明会が行われた(写真は所沢での説明会資料)。新宿区の住民説明会では、福島の実情に理解を示す声がある一方で、汚染土壌を福島県外に拡散する不安の声もあったという(2023年2月26日朝刊・福島民報)。

### 同行者プロフィール



#### せりたひろし

広告デザイナー  
中間支援NPO理事

NPOやNGO、社会福祉協議会などの紙やウェブの広報物製作を多く手掛ける。最近では広報研修や講座の講師も精力的に務める。またインスタでは「あさからデザイン塾」というオンラインのデザイン塾を運営。福島訪問の同行は、2022年秋に続いて2回目となった。



公式インスタ



### 📷 同行してみて

除去土壌の再利用が検討されていると聞いて、正直驚いた。集めた土壌はずっと管理すると思っていたからだ。長期的な管理のためには、膨大な広さとお金が必要だから、無理ってこと？無知とは恐ろしいものだ。

そして事業という名称のとおり、経済性が優先される点を強く懸念する。その事業は環境省の管轄、事業は民間が行っていることで、東電や国の姿がどこか遠のいている気がするのだが。

#### 【参考サイト】

中間貯蔵施設情報サイト  
(環境省)  
東京新聞社



2月だより ファッション



今回、2月が過ぎようとしても氷点下が続くミンスクからお届けするテーマは〈ファッション〉です。

現地のティーンエイジャー協力のもと、最新のファッション事情についてレポートします。インタビューをさせてもらったエフゲーニヤさん（19歳・グラフィックデザイナー）とウリヤーナさん（19歳・オペレーター）はチェルノブイリ事故の歴史のことや日本に関する知識も語ってくれました。



ウリヤーナさん

エフゲーニヤさん



「日本の福島県でも、2011年に同様の事故があったのは知ってましたか？」



「私達（親戚・知り合い）は事故のあった場所から遠く離れたところに住んでいるので、そういった健康被害は受けませんでした。」



「祖母の親戚にそのような症状が出ました。」



「あなた達の親戚や知り合いで、チェルノブイリ事故による放射能の影響で、甲状腺の病気にかった人はいましたか？」



「私は自分の両親から。放射能をのせた雲が流れてきたことをきかされたり、まだ幼い頃には私（子供）の健康を守るために母がヨードを身体に塗ってくれていたのを覚えています。」



「事故が起こった日付けは正確には覚えていないけど、学校では毎年そのことに関する報告・思い出す会が行われていました。そこで知りました。」



「チェルノブイリ事故について何を知っていますか？」



「この先、被害がこれ以上おおくならないよう願いますし、みんなが幸せでいてほしいです。」



「家族・親戚を大切に、復興に向けては健康を一番に優先してほしいです。」



「その日本ですが、行ってみたいですか？」



「はい、まずは東京に行ってみたくです。文化遺産を巡って、衣食住についても知りたいし、特に和食を試したいです。また、端から端まで横断して、古い建物がある場所とかも訪れてみたいです。」



「私も最初は首都の東京を訪れてミンスクと比較してみたいです。現地の人々と知り合って、お互いの生活について語り合えればと思います。青木ヶ原の散策コースに行きたいし、日本の田舎の風景を見たり、神社・お寺巡りもしたいですね。」



「その事故からの復興に向けて頑張っている日本の人達に何かメッセージはありますか？」



「ニュースか何かで知っていました。」



「この先、被害がこれ以上おおくならないよう願いますし、みんなが幸せでいてほしいです。」



若者のファッション  
(エフゲーニヤさん提供写真)

「ここからは、ファッションコーデ ネットについてきていきたいと思いま す。同年代（高校生から大学生ぐらいの年代） の間で流行りの着こなしは？」



「今はヘストリートファッション」とい う 自由なスタイルが主流です。男の子の間 では、90年代〜2000年代に人気だったオー バーサイズの服（ヒップホップ系ファッション） や登山ウェアが再流行しています。オー バーサイズへの関心は女の子達にも高く、クラ シックコーデやスーツでも男性用（大きめの） を着るのがトレンドとなっています。



(上) [Pull&Bear]店  
(下・右) [Tboe(トゥヴァヨ)]店  
(下・左) [Bershka]店内

人気のブランドはヨーロッパ系の、 <Bershka>、<Stradivarius>、<Pull&Bear>、 <Tboe (トゥヴァヨ)>です。また、アニメの 人気が高まっていくにつれて、コスプレをし て町に出かけるティーンエイジャーとその上 の世代の若者が見受けられようになりまし た。

私も個人的には、2000年代のオーバーサ イズの着こなしが好きで、そのヘストリート ファッションへのこだわりは9年生（15 歳）の時から続いています。下はスカートよ りもズボンやショーツをはくことが多く、そ

れも自分のサイズよりもできるだけ大きめのを 選びます。アニメのキャラクターがプリントさ れた服も好きで、コスプレ衣装があれば堂々 と着こなしたいと思います。私や友達（若者） がよく買い物するお店は、先ほども紹介した <Bershka>や<Tboe (トゥヴァヨ)>です。そこには 多種多様な若者向きの服があります。民族衣裳 が着られるのは、伝統舞踊のイベントに参加す る時です。日本に行ったら、美しい生地でき た華麗な着物をまとつてみたいです。」



「私は服装に関しては、クラシカルなも のからヒップホップファッションまで幅 広く興味があります。仕事場にはクラシクナ スーツでも、エフゲーニヤも言ったような大 きめなサイズを着て行くことが多いです。動き やすいですね。楽なスポーツウェアや幅広の ズボンで働くこともあります。トーンが同じ 色の組み合わせです。カラフルな色でプリント デザインされた服はプライベートで着ます。色 は何にでも合わせやすい黒が好みです。髪を染 める時は明るい色がいいです。化粧は普段あま りしません（特別なイベントに行くときだけ） が、メイクではくつきりと華やか顔にします。 耳飾り（ピアス）用の穴を開けたのは7歳の時

でしたが、同じクラスの女の子達のほとんどはそれをし終えていました(すでに幼稚園の時に)。今は、日本にあるようなワイドなストリットパンツを手に入れるのが夢です。」

世界的な傾向でもある東アジアのサブカルチャー人気(日本のアニメ・韓国(K-POP)は、こちらの子供達(小・中・高)く若者(大学生)の間でも見受けられ、その流行に沿った趣味がどんどん広がっています。若いうちにしかできないような大胆なファッションコーディネートも、うんと楽しんでチャレンジする素直な子達からはポジティブなエネルギーをもらえます。

今を楽しむことの大切さをあらためて教わっています。



(上) アニメ・K-POPグッズ販売店  
(下) コスプレイヤー達と  
(隣り左から2番目はエフゲーニヤさん)

### 3月だより

#### ①ブレスト編

3月後半に入ってようやくブラスの気温となり、春の訪れを感じられるようになった現地レポートです。今回は、長らく行っていないブレスト市(州)の様子もお伝えしたいと思います。

久しぶりに(私たち医療支援ネットワークの間で)連絡を取り合ったブレスト内分泌診療所アルトゥール院長から、移動検診の実施状況を報告してもらいました。以下は提供していた最新のプレゼンテーション・ファイル内にある、移動検診車の活動記録写真と病症発見率データです。

#### 移動検診の流れ



移動検診車で会場へ(学校や診療所)



検査室の準備



問診



触診



エコー



血圧測定



細胞診



検査結果のフィードバック

異常あり

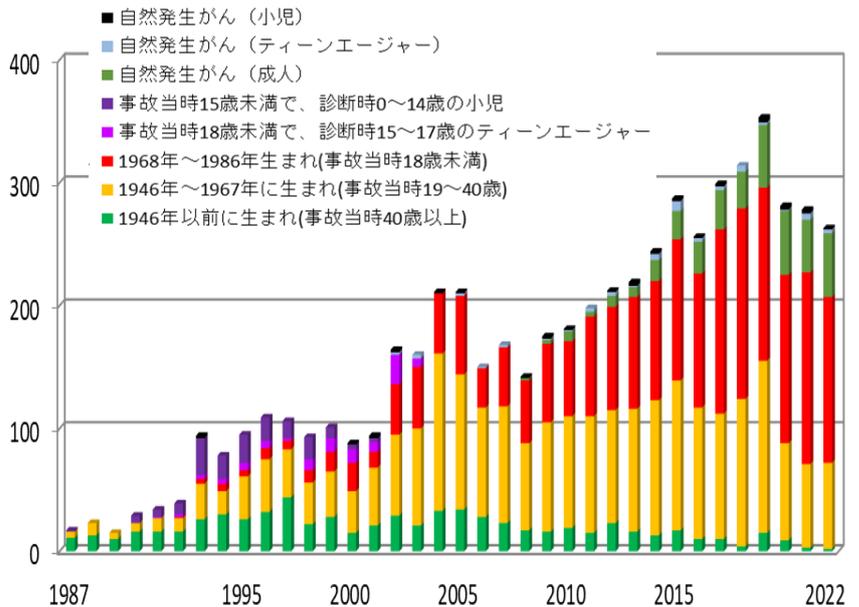
異常なし

穿刺吸引細胞診を実施

検診終了



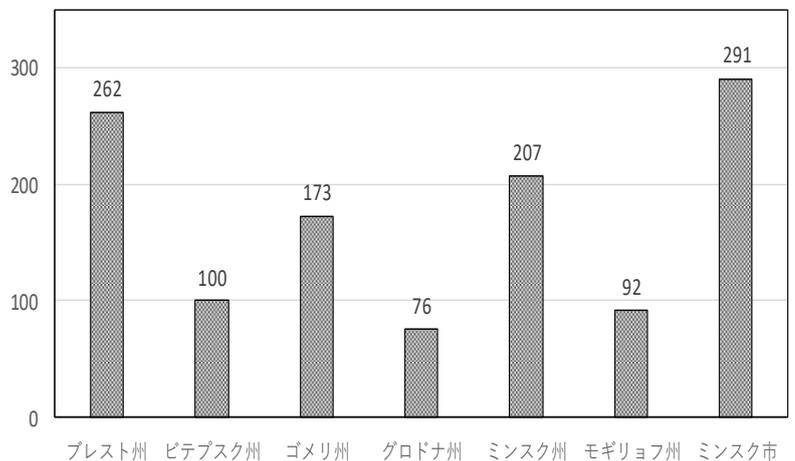
ベラルーシの地図



ブレスト地方の年齢ごとの甲状腺がんの動態

◇解説◇

チェルノブイリ事故当時子ども（18歳未満）だった世代が大人になって甲状腺がんを発症しています。



2022年度の甲状腺がん新規発症者数

アルトゥールさんをはじめ、ブレスト内分泌診療所のスタッフの皆さん、現在の医療活動報告と貴重な資料のご提供まことにありがとうございます。これからも続く協力関係と友情に感謝するとともに、またお会いできる日を楽しみにしています。

さて、私たちCMN訪ベラメンバーがよく知っているブレストの町はどうでしょうか。最近、学校の観光学習でブレスト州の名所を回ってきたばかりの知り合いの生徒さん達に、その様子をおしえてもらいました。

ミンスクから団体バスで約4時間、ブレスト市に到着します。特に印象に残ったのはやはり、日暮れとともに町の中心通りにランプライターが現れて外灯に明かりをつけていく伝統です。私たちもよく見てきた光景ですが、今も同じ方が火を灯しているようです。2009年から復活したこの伝統を每晚欠かすことなく守っています。彼の制服のボタンを握り願いをすると、必ずそれが叶うという言い伝えもあります。

ブレスト中心からバスで約2時間の距離にあるコサヴァ市（ブレスト州イヴァンツェヴィツキ地区）には有名なコサヴァ城（1838年建設）があります。貴族の紋章が名づけられたこのヘプスロフスキー宮殿内には5つのホールがあり、中央ホールにはこの土地の伝説を語る展示品が並べられており、ホワイト・ホールはかつてのコサヴァ市の所有者プロフスキー伯爵家の歴史に捧げられ、さらに2つのホールで過ぎ去った世紀の出来事と現代の再建築について語られていて、第五ホールは展示室専門となっています。豪華な室内装飾に絵に描いたような美しさの城外観、ブレストに行った時はぜひ訪れてみたい観光名所のひとつですね。

この他にも、ブレスト州には前回訪問時に移動検診車で一緒にまわったピンスク市、イヴァノヴァ市、ストリン市等、魅力的な町・住民の皆さんとの素敵な出会いがあります。次回ブレストでの医療支援活動がお互いに待ち遠しいです。

## ● ● ブレスト市中心 ● ●



↑ 外灯に明かりがつけられていく伝統の様子（2016年）



↑ ランプライター  
（提供写真）

→ 外灯ランタン通り  
（提供写真）



## ● ● コサヴァ城 ● ●



← 外観  
（提供写真）

→ 内装  
（提供写真）

↓ 城周辺  
（提供写真）



## 3月だより ②ミンスク編

今回、ミンスクからお届けするテーマは、**外食**です（家庭でつくる郷土料理については通信NO. 127のコラム春だよりをご参照ください）。

こちらの食生活では、朝・夕食は各家庭で、昼食は職場や大学内にある食堂でとる（学校では給食が出る場所も）ことが一般的です。町にはいろいろなレストランやカフェがあります。外食には家族そろってよりも職場の仲間・友達同士で行くことのほうが頻繁なようです。

子供や若者達の間ではやはりファストフードが人気で、各ショッピング



ショッピングモール内  
フードコートメニュー

グモール最上階にあるフードコートではフライドポテト、ハンバーガー、ホットドッグ、ピザ、シャワルマ、（肉と野菜にソースをかけて包んだロールサンド）がよく注文されます。おいしいクロワッサンで有名な「Tbepin」（ティエリー）「チェーン店も好まれています。また、食後のデザートにはアイスクリームが変わらない人気を誇り（一年を通して、冬の寒い時期でも愛されていて）、飲み物には、タピオカ、ティーがこちらのティーンエイジャーの間でもブームとなっています。仲のいい友達と思いつきはしやぐ交流の場となっており、食事よりもおしゃべりや冗談、おどけて歌ったり踊ったりじゃれあったりするのに夢中になっています。高カロリーのものばかりになります。それ以上笑ってエネルギー消費するので、基礎代謝が上がるのではないのでしょうか。ただ、子どもの食と健康を心配して、できるだけ家でバランスのとれた食事をしてほしいという親御さん達がほとんどで、これは世界共通の傾向と言えます。

色々な料理が楽しめるミンスクの様々な飲食店の中から、次の5つのカフェ・レストランを見てみましょう。

自分が通う大学ジャーナリズム学部近くに  
あるショッピングセンターハカローナVの食料品売  
場内に、セルフサービス型の簡易カフェが現れま  
した。

値段がとてもリーズナブルなうえに清潔感が保たれています。チョイスした飲食物を使い捨ての紙コップ・皿に入れてくれ、ビニールで個別包装されたプラスチック製のスプーン・フォークか新品の割り箸をとり、お会計してもらいます。家庭で出されるようメニューが並び、種類のサラダとスープ、マッシュポテトや蕎麦の実のお粥といった付け合わせに、カツレツや揚げ魚のメインなどバラエティー豊富です。昼休みや買い物ついでに個人（ひとり）でも気軽に立ち寄れる飲食店となっています。



カフェのメニュー

教会にあるカフェハムボージャ カローフカ(てんとう虫)の直訳では店のロゴマークにもなっている。神の牛(牛)では、家庭の味に加えて色とりどりの手作りケーキが楽しめます。

教会にお祈りに来る人達が立ち寄りやすい場所で、普段から家族連れ・幼い子供連れが目立ちます。今の時期は肉・乳製品・アルコール等に関して食事制限がある四旬齋にあたり(今年は2月下旬から4月中旬の復活祭までの間)、ここでも期間限定でそれらの食品を使わないヘルシーなメニューとなっています。それでもおいしく味付けされたスープや野菜ライスとスイーツで満腹感を得られます。



→ カローフカ店内



右：四旬齋メニュー コーン入り野菜ライス  
左：ボルシチスープとブリヌイクレープ



→ ヴァシリキ外観  
↑ マチャンカとドラニキ



老舗のベラルーシ料理店「ヴァシリキ」は誰でも気軽に食事に行きやすいお店です。

それほど高くない値段で現地の郷土料理を味わえ、会話にも花が咲きます。家族連れ・友人同士やカップル・仕事の仲間内まで幅広く楽しめます。主食のジャガイモを使用した料理(特にパンケーキの「ドラニキ」)やコクのあるスープ類、豚肉をサワークリームで煮た「マチャンカ」など体が芯から温まる食べ物が数多くあります。



ベラルーシのスシは巻き寿司の方が多く、魚の身などですし飯を巻いたものや、中にチーズが入ったものなどバラエティーに富んでいます。

スシ以外の日本料理が本格的に楽しめる新たな食事処「サカグチ」が注目を集めています。

市内で最も大きな商業施設のひとつ「ヘダナモール」のすぐ近くにオープンしたこのレストランでは、おにぎり、ラーメン、天ぷら、唐揚げ、餃子、たこ焼などバリエーション豊かな日本料理を提供してくれます。席はカウンターとテーブル、座敷(フローリング)に分かれており、内装も和風に美しく施された空間です。私たち(日本人)にとってはどこか懐かしくも新鮮な、現地の訪問客にとっては本物の和(主に和食)の文化と触れ合える魅力あふれる空間となっています。

← サカグチの店内  
↓ メニュー  
焼きおにぎり  
唐揚げ・ラーメン





↑ Da Claudio 店内



→ パスタと  
ウサギ肉料理

町の中心に位置するイタリア料理の「Da Claudio」店はとても落ち着いた雰囲気の上品なレストランで日本人好みかもしれません。

イタリア料理ならではのパスタの他に、普段なかなか口にできないウサギ肉の料理（食感は鶏肉のような）などを試せて、ドリンク類も豊富です。ほどよく静かな空間で、食事をじっくり味わいながら大切な話ができるような場として最適です。

アイスクリーム  
は一年中愛されています



田中仁（たなかひとし）

ベラルーシ国立大学在学中から、フリーランスのジャーナリスト、通訳として国内外の新聞や雑誌で活躍中。ミンスク在住。

\*今回は紙面の都合上、店名のアルファベットを横書きにしております。

このように、ミンスクにおける外食の楽しみかたは多種多様です。思い返すと、CMN訪ベラメンバーと現地のパートナー達との間で仕事をする上でも、様々な世代の友人達との付き合いの中でも、食をとにもすることで人と人とのつながりが広まり、交流がさらに深まってきました。一緒に心のそこから笑って食事をできる相手が見つかった時の幸福感は、何ものにも変え難い喜びです。その大切さは、真っ直ぐお互いに向き合うこちらの人々の姿勢に現れています。

## チェルノブイリ通信のペーパーレス化を進めています

印刷・郵送にてお届けしているチェルノブイリ通信ですが、環境負荷軽減および経費削減のためペーパーレス化を進めています。団体ウェブサイトでのpdf版の閲覧へ変更していただける方は大変お手数ですが、事務局までメール（[jimu@cher9.org](mailto:jimu@cher9.org)）またはお電話・FAX（092-260-3989）でお名前とご住所をお知らせください。

また、会報発行のお知らせメールをご希望される方は合わせてメールアドレスもお知らせください。

環境問題・環境負荷への取り組みにご理解、ご協力をお願いいたします。

SNSでも情報発信中！

Twitter @cher9\_jimu

Instagram @jimu.cher9



# たくさんのご支援を ありがとうございます

(順不同・敬称略)

合計	365,366円
*活動支援金	296,766円
*のぞみ21カンパ	0円
*雪だるま3号カンパ	3,000円
*東日本支援カンパ	11,600円
*おまかせカンパ	41,000円
*ウクライナカンパ	13,000円

(2023年2月～2023年4月分の寄付内訳)

## ●口座受付寄付

石川睦枝 伊藤達郎 榎本みつ枝 沖佐和子 梶原孝子 金只律子 北村禧三代 小林祐子 貞池和恵 白水明代 関根敏子 高嶋幸雄 佃あけみ 西嶋香穂子 平川宗信 古本募金さしやぼん(運営:嵯峨野株式会社) 本田美穂子 松井岩美 村上和代 本岡眞利子 山田秀子 山本恵

## 〔都道府県別〕

【新潟県】 1名	【東京都】 1名	【栃木県】 1名
【静岡県】 1名	【愛知県】 2名	【鳥取県】 1名
【島根県】 2名	【広島県】 1名	【山口県】 2名
【愛媛県】 3名	【福岡県】 14名	【佐賀県】 1名
【長崎県】 1名	【大分県】 2名	【宮崎県】 2名

計35名(匿名含む)

## ●月々の定額寄付(マンスリーサポーターの皆さま)

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 内野千鶴子 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 財津耐代子 財津悠子 斉藤美代子 阪口香奈子 佐々野也依 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男 由利子・朱加 網脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西首延子 納富育代 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸山子より 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村西美由紀 室屋芳乃 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 渡邊久美子

計108名(匿名含む)

貴重なご寄付をお寄せいただき、ありがとうございます。皆様よりお預かりしたご寄付は、チエルノブイリ被災者医療支援、福祉工房のぞみ21支援、東日本震災被災者支援、事務費用等にあてさせていただきます。

※通信のお名前掲載をご承諾いただいた方のみ、ご紹介しております。

## 編集後記

天気予報に雨マークが多いなと思っていたら、先日九州北部の梅雨入りが発表されました。道端に咲く紫陽花も色つき始めていて、見られるを迎えるのが楽しみです。(K.T)

## 皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

本当にわずかですが、お役立て下されば幸いです。●寒い中でも笑顔の子どもの様子をみて、励まされます。●チエルノブイリ通信、いつも読ませていただいています。私は何も出来ませんが知ることも大切だと思います。原発反対は声を出して伝えています。無駄に電力も使わないようにしています。●コロナ禍で活動をお続けくださってありがとうございます！川原様、私も信信的にサポートを続けて参りましたアーシャIIアジアの農民と歩む会及びミャンマーの孤児院の運営も窮地にあります。世界は終末に向かっているの？といぶかる中、YouTube「うちやんねる」と出会い、拝見する度、光を感じる思いがしております。●一日も早くウクライナの春が訪れますように。●沖縄問題もしっかり私達は問題意識を持つ事が大切でそして、少しずつ動いていく事ですね。感謝 坂本龍一さんの被災ピアノに寄せる思いに感動しました。グリーンコープを通して学んでいます。

## お知らせとお願い

**振込** 用紙は原則として毎号同封しています。これは「思い立った時にいつでも振り込みできるように、毎号同封してほしい」というご要望があったからです。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要な方は処分をお願いいたします。